

乙 第 号

中村 保幸 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	大林 千穂
論文審査担当者	委員	准教授	田中 利洋
	委員(指導教員)	病院教授	小山 文一

主論文

The prognosis and recurrence pattern of right- and left- sided colon cancer in Stages II, III, and liver metastasis after curative resection

根治切除後の結腸癌 Stage II、Stage III、及び大腸癌肝転移における原発部位が与える影響

Yasuyuki Nakamura、Daisuke Hokuto、Fumikazu Koyama、Yasuko Matsuo、Takeo Nomi Takahiro Yoshikawa、Naoki Kamitani、Tomomi Sadamitsu、Takeshi Takei、Yayoi Matsumoto、Yosuke Iwasa、Kohei Fukuoka、Shinsaku Obara、Takayuki Nakamoto、Hiroyuki Kuge、Masayuki Sho

Annals of Coloproctology. 2020 Sep 18. doi: 10.3393/ac.

論文審査の要旨

結腸癌の原発部位が予後に影響を及ぼすことが報告されているが、詳細な検討は少ない。本研究は、結腸癌手術症例を Stage II、Stage III、及び肝転移にサブ・グループ化し、左側結腸癌と右側結腸癌の予後の相違を解析したものである。結果は Stage II では無再発生存率・全生存率に左右差はなく、Stage III および肝転移症例では無再発生存率に差はないものの、全生存率は右側で有意に低かった。また再発形式が右側では腹膜播種が多いことが示された。背景因子に左右差のあった性別、壁深達度、組織型、静脈侵襲を調整しても同様の結果であり、リンパ節転移を起こす過程に腫瘍進展の違いがある可能性が示唆された。

公聴会では、左右結腸間での遺伝子変異の相違や、それによるリンパ管侵襲や管内でのふるまい、門脈血流の差、今後の化学療法の可能性についての質問があり、臨床研究による限界はあるもの、現在想定しうることを丁寧に回答され、学位研究の成果が裏付けられた。

本研究はリンパ節転移を有する結腸癌の原発部位が、初回手術後ならびに肝転移後の予後にも影響を及ぼすことを証明したもので、今後の消化器外科学の発展に寄与すると考えられる。

以上より、本研究は博士（医学）の学位に値すると評価できる。

参 考 論 文

1. A case of an enlarged rectal adenoma while achieving a clinical complete response with chemotherapy for advanced rectal cancer.

Nakamura Y, Koyama F, Morita K, Kuge H, Ohbayashi C, Sho M.

Clin J Gastroenterol. 2020 Oct;13(5):782-787.

2. S状結腸癌多発肝転移に対して計5回の肝部分切除術を施行し、5年以上長期生存できた症例

中村保幸、小山文一、野見武男、山戸一郎、植田剛、北東大督、井上隆、安田里司、川口千尋、尾原伸作、中本貴透、佐々木義之、吉川高宏、藤井久男、中島祥介

癌と化学療法 43巻 12号 1736-1738 (2006.11)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに消化器機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年3月9日

学位審査委員長

病理診断学

教授 大林 千穂

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

准教授 田中 利洋

学位審査委員(指導教員)

消化器機能制御医学

病院教授 小山 文一